

IHIグループの重要課題

重要課題の特定

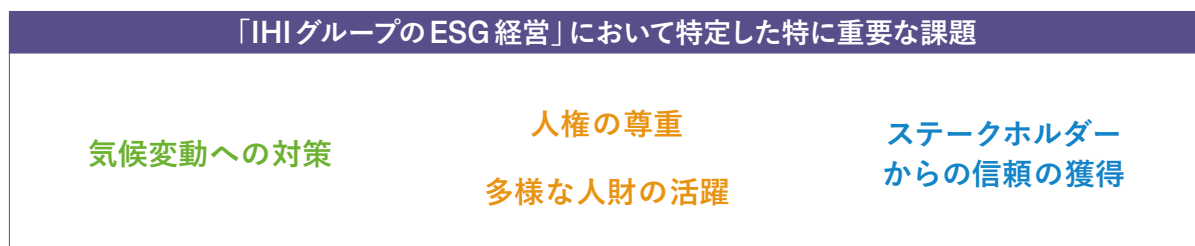
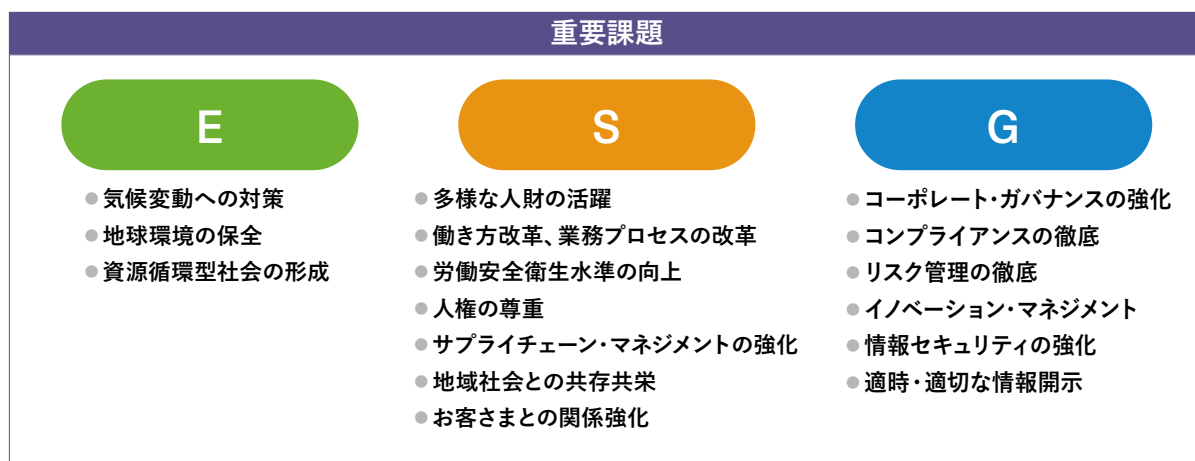
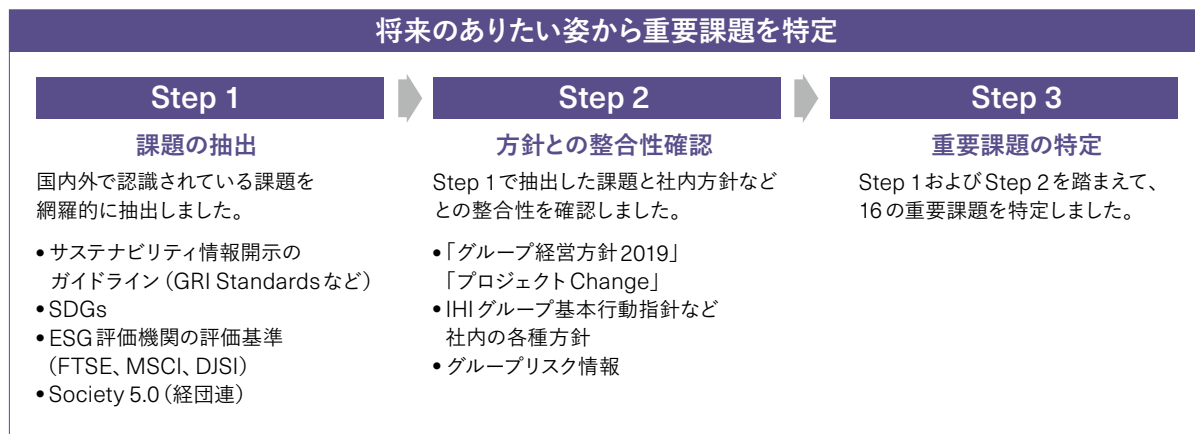
IHIグループは、持続可能な社会を実現し企業として持続的に成長するために、優先的に取り組むべきことを重要課題として特定しています。

2020年に策定した「プロジェクトChange」の中で、近未来に創り上げたい社会を「自然と技術が調和する社会」とし、IHIグループが取り組むべき社会課題や提供できる価値を明確にしました。そして、取り組むべき社会課題とした、脱CO₂、防災・減災、暮らしの

豊かさの実現のために「重要なことは何か」という観点で、重要課題を特定し直しました。

その後、2021年11月に発表した「IHIグループのESG経営」では、地球規模の課題である気候変動への対策に取り組むこと、事業を通じて関わる人びとの人権を尊重すること、価値創造の原動力となる多様な人財が活躍すること、そして誠実な企業経営によってステークホルダーからの信頼を獲得することを、優先的に取り組むべき特に重要な課題として特定しました。

重要課題の特定プロセス



重要課題における目標と実績

E 環境			
重要課題	目指す姿	指標と目標	2023年度の主な実績
気候変動への対策	・社会システム全体の環境負荷を低減する	・2050年 バリューチェーン全体でカーボンニュートラルを実現 ・2030年度 GHG排出量 (Scope1, 2) 2019年度から半減 ・2025年度 GHG排出量 (Scope1, 2) 12,000t-CO ₂ e削減 ・2025年度 エネルギー消費原単位 2022年度比で3%削減	・GHG排出量 (Scope1, 2) 211,970t-CO ₂ e、3,783t-CO ₂ e削減 (2022年度比) ・エネルギー消費原単位 ・特別要因 ^{※1} を除かない場合 17.6 TJ/億円、3.5%増加 (2022年度比) ・特別要因 ^{※1} を除いた場合 15.6 TJ/億円、8.2%減少 (2022年度比)
地球環境の保全		・環境事故発生件数 ゼロ ・環境法令違反件数 ゼロ	・環境事故発生件数 ゼロ ・環境法令違反件数 ゼロ
資源循環型社会の形成		・2025年度 廃棄物排出量 2022年度比で3%以上削減 ・2025年度 取水量 2022年度比で3%以上削減 ・2025年度 リサイクル率の定義の見直し、最終処分量 (全廃棄物の90wt%以上) 把握	・廃棄物排出量 25,410t、10.3%増加 (2022年度比) ^{※2} ・取水量 5,844千m ³ 、44.8%増加 (2022年度比) ^{※2} ・環境情報を収集している73拠点において水ストレス地域調査を実施、High Risk以上にあたる地域6拠点 (8.2%)を特定 ・リサイクル率の定義見直し、確定
※1 PW1100G-JMエンジン追加検査プログラムの影響など ※2 海外拠点における一時的な生産プロセスの変更により増加			

S 社会			
重要課題	目指す姿	指標と目標	2023年度の主な実績
多様な人財の活躍	・従業員が共通の価値観のもとで、持てる能力を最大限に発揮する ・多様性の力を価値創造につなげる	・2030年度 役員に占める女性比率 30%以上 ・2030年度 女性管理職比率 15% ・2026年度 女性管理職比率 7% ・2026年度 女性採用比率 大卒の20%程度 ・2023年度 障がい者雇用率 2.6%	・役員に占める女性比率 18% ・女性管理職比率 5.3% ・女性採用比率 (大卒) 19.8% ・障がい者雇用率 2.62% ・従業員エンゲージメント 54ポイント ・社外での兼業・社内での副業の登録者数 延べ約140名
働き方改革、業務プロセスの改革	・組織全体の生産性を高める		
労働安全衛生水準の向上	・共に働く全ての人びとが安全で健康に働くことができる職場環境を実現する	・2023年度 安全衛生度数率 0.6未満 (工場部門) 1.2未満 (建設部門)	・労働災害 (不労災害以上) の発生件数 54件 (国内) ・安全衛生度数率 0.95 (工場部門) 2.10 (建設部門)
人権の尊重	・あらゆる人びとに対する人権尊重の責任を積極的に果たす	・人権インパクトアセスメントを3年間で IHIグループ会社約160社実施	・人権インパクトアセスメント実施の累積数 96社 (うち2023年度は37社) ・「IHIグループ人権方針実行ガイドライン」を日本語・英語・中国語の3カ国語で作成・展開
サプライチェーン・マネジメントの強化	・持続可能なサプライチェーンを構築する	—	・グリーパンス (救済) メカニズムの整備 (2024年4月1日より)
地域社会との共存共栄	・住み良い豊かな地球づくりに役立つとともに、グループの価値向上につながる社会貢献活動	—	・社会貢献活動の支出総額 532百万円 (前年度比43百万円増)
お客さまとの関係強化	・開発、提供する製品・サービスの安全性に十分配慮するとともに、お客さまおよびユーザーの満足を得られているかを確認し、絶えず製品・サービスの水準を高める	—	・国内事業所・工場のQMS認証取得率 ISO9001 90.6% それ以外の規格を含む取得率 96.2%

G ガバナンス			
重要課題	目指す姿	指標と目標	2023年度の主な実績
ステークホルダーからの信頼の獲得	コーポレート・ガバナンスの強化	・株主をはじめとするステークホルダーの皆さまから、長期にわたって信頼され、ご愛顧いただく	・役員報酬の業績連動賞与 (年次インセンティブ) において、ESG経営の推進を目的とした「ESG指標」の導入トライアル実施 (2024年度より本格導入)
	コンプライアンスの徹底	・法令順守にとどまらず、変化する社会の価値観や社会からの要請を的確に把握し、社会の期待に応える	・コンプライアンス・ホットライン通報件数 314件 ・競争法への違反件数 0件 ・贈賄禁止法 0件
	リスク管理の徹底	・事業の継続、役員ならびに従業員とその家族の安全確保、経営資源の保全、社会的信用の確保	
	イノベーション・マネジメント	・ものづくり技術の中核とするエンジニアリング力によって、社会課題解決につながるソリューションを提供し続ける ・知的財産を、社会課題の解決とお客さまの価値向上に資するように事業活動に活用する	・研究開発費用 393億円 ・特許取得件数 564件 ・特許保有件数 8,172件 (国内4,094件、海外4,078件)
	情報セキュリティの強化	・お客さまやお取引先の機密情報、会社の経営情報や技術情報などを確実に保護する	・情報セキュリティ対策レベル評価 3.8 (5点満点)
	適時・適切な情報開示	・経営の方向性と主要な業務について、誠実に説明責任を果たす	・投資家との対話 361社 (国内投資家99社、海外投資家262社) ・債券投資家との対話 30社 (投資家13社、銀行7社、金融機関6社、証券会社4社)